

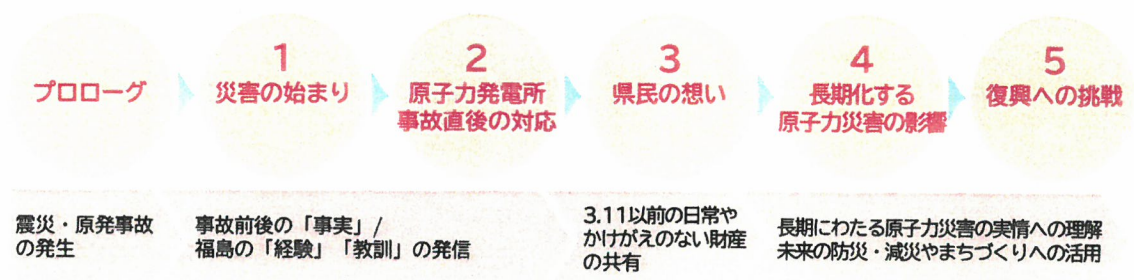
2011年3月11日14時46分、日常を一瞬にして奪った地震、津波、そして原子力発電所の事故。この複合災害の“記録”と“教訓”を将来へと引き継ぐため、東日本大震災・原子力災害伝承館では、これまで収集してきた24万点を超える資料をはじめ、県民へのイ

ンタビュー、復興に挑戦する姿の記録、語り部の生の声などを活かした展示を行います。来館者それぞれが、この複合災害を「自分事」として捉え、考えるきっかけとなる場を目指します。

展示エリア全体イメージ



展示ストーリー



■主な展示の構成要素

○証言映像

県民が自らの声で災害について語る証言映像を各展示コーナーに設置します。

○解説パネル

わかりやすい解説と合わせて裏付けとなるデータや写真等を表示します。タブレットと連動して多言語対応もします。

○解説映像

テーマに応じて貴重な記録映像やCG、新規撮影素材を組み合わせて紹介します。また、映像と実物、模型を組み合わせた複合演出も導入します。

○実物資料

各展示テーマを象徴する実物を展示し、キャプションによりその資料の由来、背景を補足します。

○タッチパネル解説

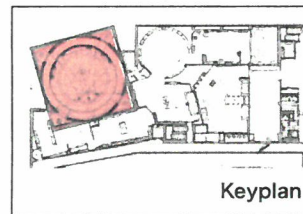
来館者の興味・関心に応じて詳細情報まで閲覧可能な情報端末を設置します。最新情報は館のスタッフが更新可能なシステムを採用します。

○語り部

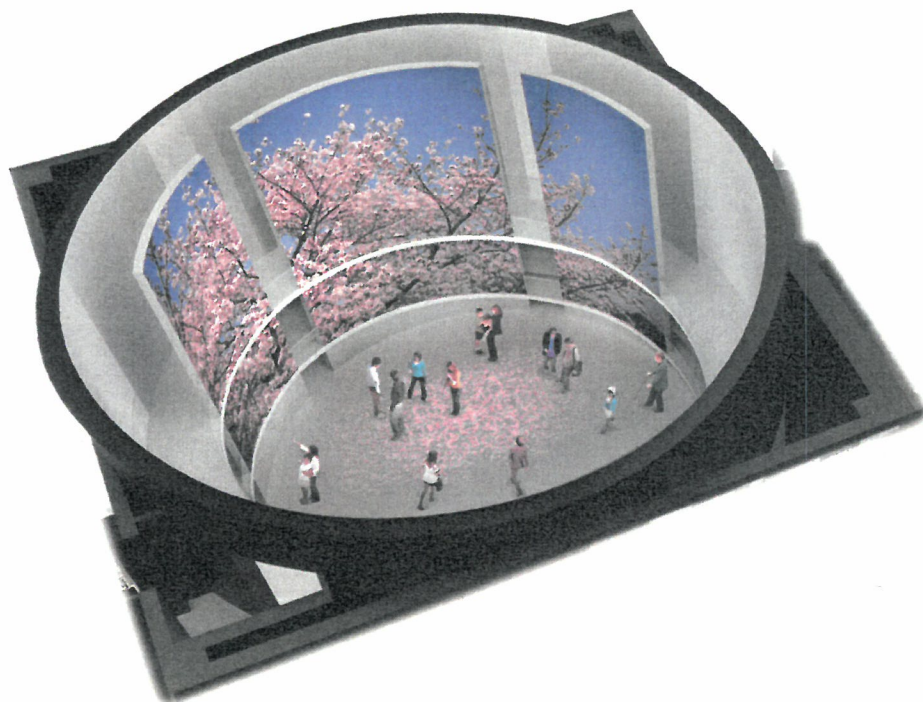
ワークショップスペース及び研修室での定時口演を予定しています。

プロローグ (導入シアター)

原子力発電所と共存してきた地域の日常が、3.11の震災をきっかけに一変した。地震、津波、そして原子力発電所事故というこれまで経験したことのない複合災害に直面し、手探りで対応した多くの人々の状況を、当時の映像を組み合わせることで伝え、続いて見学する展示ゾーンのエントロダクションとしての役割を担う。当たり前前の日常が災害により突如一変することを意識させ、この災害の「自分事化」のファーストステップの場とする。



■導入シアター空間イメージ

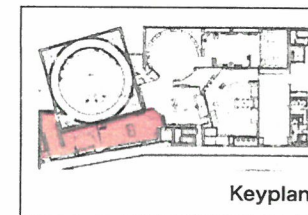


【導入シアター映像シナリオ】

<p><b>1</b></p> <p>原子力発電所と地域の様子</p> <p>原子力発電所が建設され、発電された電気は日本の経済を支えた。地域も原子力発電所とともに発展し、平穏な地域の日常が営まれていた。</p>		<p><b>4</b></p> <p>避難を余儀なくされた町</p> <p>住民が避難した後の町並み。長期にわたる避難生活。風評等による産業への打撃。原子力災害特有の困難な状況を伝える。</p>	
<p><b>2</b></p> <p>3.11</p> <p>巨大な地震の発生、大津波の襲来。原子力発電所へも津波が襲い、平穏な日常生活が一変する…</p>		<p><b>5</b></p> <p>現在～導入</p> <p>一方、廃炉作業等、復興への道のりは時間がかかる。以降の展示の導入として、来館者へのメッセージを伝える。</p>	
<p><b>3</b></p> <p>原子力発電所事故、避難の開始</p> <p>大気中に放出される放射性物質。避難場所を転々とし、先の見えない不安を抱く人々。当時の映像を組み合わせ、避難開始時の混乱した状況を伝える。</p>			

## 1.災害の始まり

平穏な暮らしを一変させた地震と津波、それに続く原子力発電所事故。複合災害の発生を受け、人々はどのように行動したのか。事故前・事故当時・事故直後の状況を時系列でたどり、さまざまな資料・証言・事故調査の記録から、原子力発電所事故の始まりを克明に描いていく。



## ■コーナーの展示概要

## 1-3 原子力発電所事故の発生

地震発生、津波到達、電源喪失、メルトダウン、水素爆発、放射性物質の放出…原子力発電所内で起きた事象を伝える。



映像と模型による複合演出

## 1-4 災害対策本部の記録

かつて誰も経験したことのない事態に直面し、懸命に対応した人々の記録を、当時の映像や実際に使用されていた実物資料を通して、当時の緊迫感とともに伝える。



事故当時の状況を記載したホワイトボード (実物資料)

## 1-1 事故前の暮らし

事故前の原子力発電所周辺地域の暮らしはどのようなものだったのか？祭りや学校生活、産業などの記録を通して、描き出す。



大型写真グラフィック

## 1-2 東日本大震災 ～地震と津波の記録～

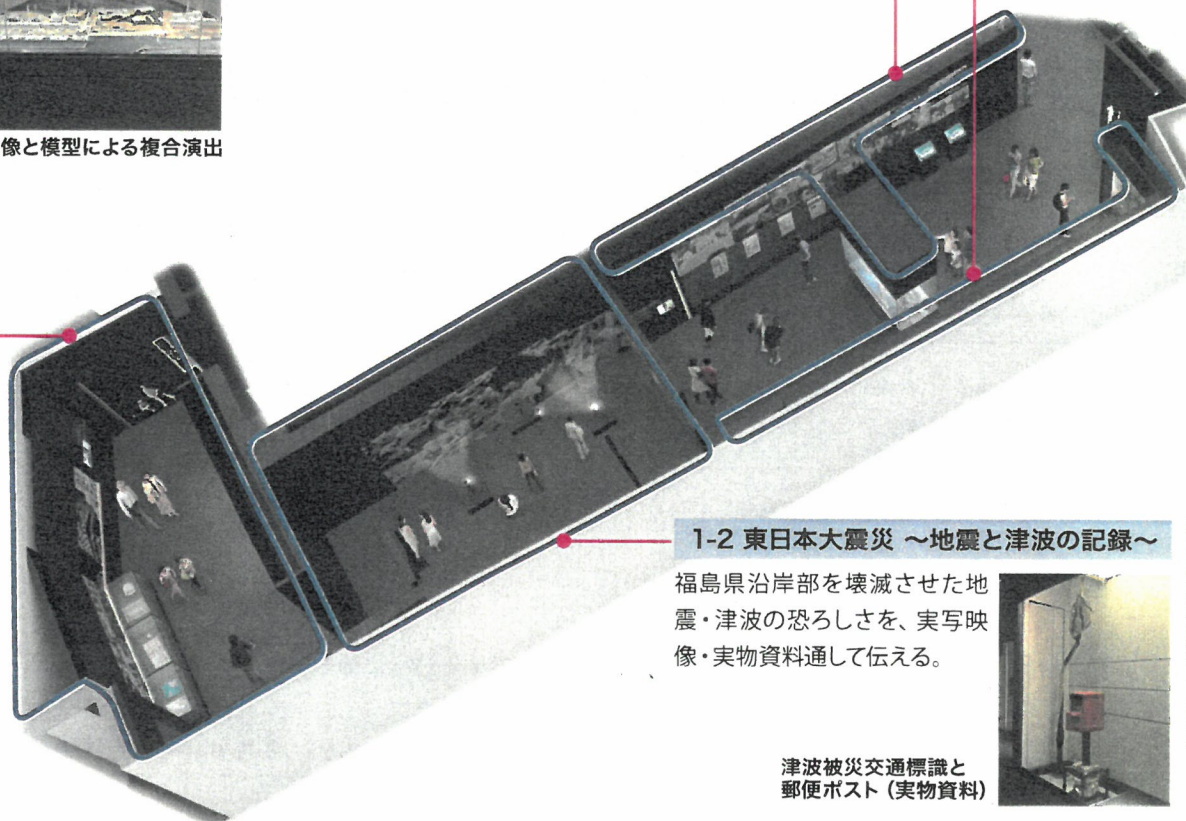
福島県沿岸部を壊滅させた地震・津波の恐ろしさを、実写映像・実物資料を通して伝える。



津波被災交通標識と郵便ポスト (実物資料)

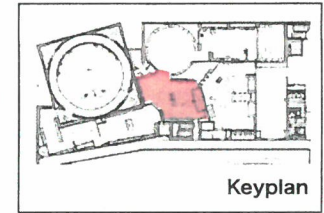


壁面全体に広がる大型映像

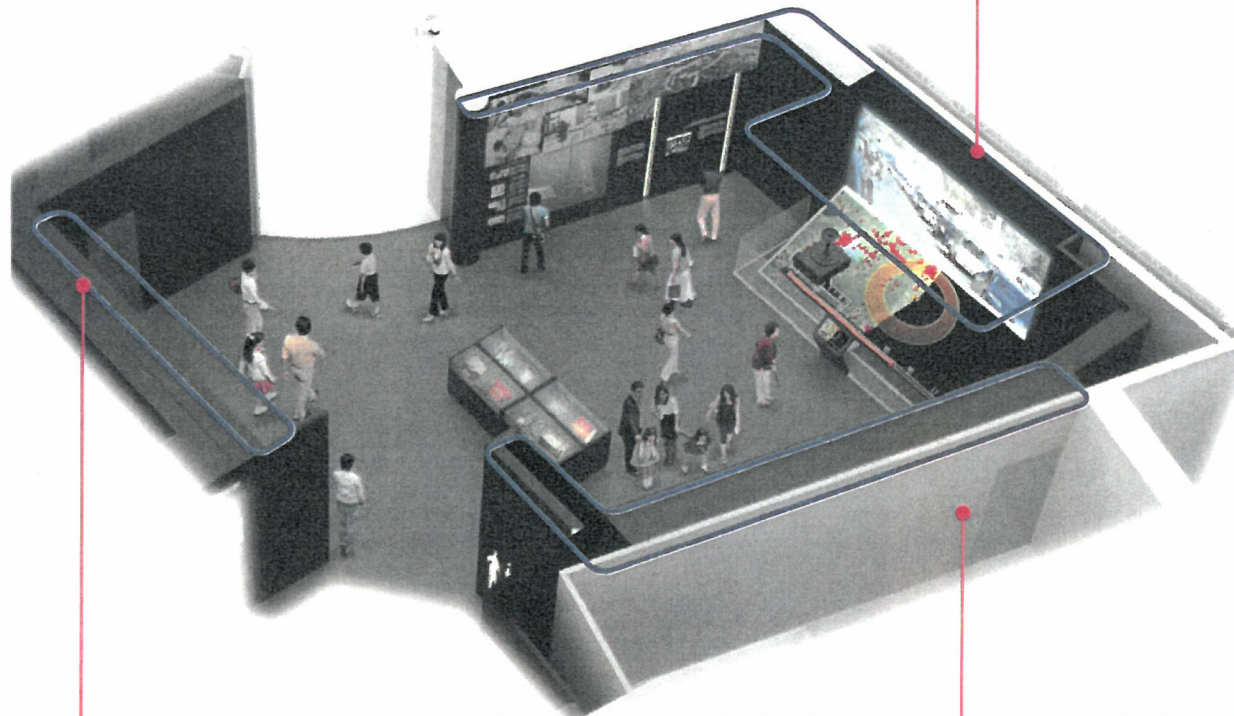


## 2.原子力発電所事故直後の対応

錯綜する情報、転々とする避難生活。これまで経験したことのない原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、避難などの様子に焦点を当て、さまざまな資料や証言などをもとに振り返る。



### ■コーナーの展示概要



#### 2-2 県内に広がる不安

「放射線」という目に見えないものの脅威に初めて晒され、混乱した当時の状況や対応、また、産業への影響の大きさを伝える。

#### ◆ビッグデータを活用した映像演出について

##### 「原発避難の7日間」

膨大なビッグデータや当事者の証言から明らかになってきた、3月11日の発災から7日間の軌跡を、当時の実写映像と、ビッグデータ（NHK協力）による解析映像をシンクロさせることで分かりやすく提示し、災害初期における行動の重要性を改めて訴求する。



#### 2-3 国内外の反応と支援

原子力発電所事故の発生に対する国内外からの反応や、さまざまな支援に対する感謝を伝える。



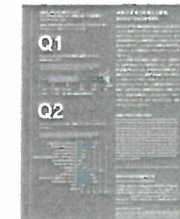
海外からの支援



応援の寄せ書き

#### 2-1 避難の開始

避難開始当時を振り返る証言を通し、先が見えない状況で故郷を離れ、避難所を転々と移動しなければならなかった人々の想いを想像し、共感を深めてもらう。



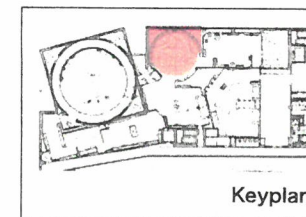
避難者へのアンケート 避難所で使用されていた実物資料結果



### 3. 県民の想い

平穏な日常が原子力発電所事故後にどのように変わってしまったのか、県民の想いを、「記憶（証言、筆跡、手記等）」と「記録（事実、データ等）」を組み合わせる発信する。

特に、広域的・長期的な避難、あらゆる分野への風評など、原子力災害特有の事象を中心に発信する。



#### ■コーナーの展示概要

#### 3-3 家族や地域生活との別れ・変化

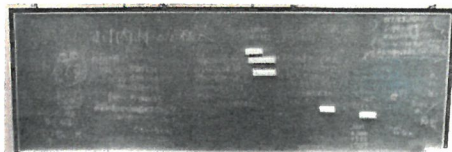
地域の人々の伝統的な風習や歴史・文化の記録とともに、原発事故を機に離ればなれになってしまったふるさとの人々への想い等を来館者と共有する。

Photo

○○○○○/田植え踊り、  
早乙女着物 (実物資料)

#### 3-2 楽しかった学校生活・突然の別れ

原発事故前の子どもたちの学校生活の思い出、その後の別れや友人たちへの想いなどを来館者と共有する。



川内村に避難した人が黒板に残したメッセージ (実物資料)

#### 3-4 生活基盤の変化・将来への想い

原発事故は、経済・産業へ深刻な影響を及ぼした。また別の場所で生活を送り始めた人々もいる。ここではそれぞれの想いについて来館者と共有する。



野生動物に荒らされた  
ふすま (実物資料)

#### 3-1 災害時に感じた不安・恐れ

震災・原発事故の瞬間を捉えた記録や痕跡とともに、災害発生時の状況や、人々が感じた恐れや不安について来館者と共有する。



津波被災ガードレール支柱  
(実物資料)

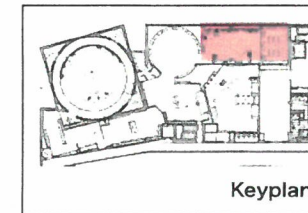
#### ◆県民の想いを伝える震災関連資料と映像の複合演出展示について

原子力発電所事故前と事故後の人々の暮らし、心情の変化を、証言映像と展示物を組み合わせて、スクリーン全体を活かしたマルチ映像で表現。

通常時	震災関連資料展示 証言映像	・震災関連の資料展示として活用 ・証言映像	
映像演出時	映像と展示物の複合演出  パノラマスクリーン演出	・映像の一部が透けて展示物が見える演出やプロジェクションマッピングの手法を用いて、来館者のイメージを増幅  ・パノラマスクリーンとして来館者の没入感を演出	

### 4.長期化する原子力災害の影響

原子力災害が長期化する中で、福島県の人々がどのように対応してきたか、タッチパネル解説や資料を通して学んでもらう。特に、測定機器などの実物資料を活用した研修やワークショップを行うことで、原子力災害の特徴や実態への気付き・学びを提供する。



#### ■コーナーの展示概要

#### 4-2 風評の払拭

原子力発電所事故が産業に与えた影響とともに、県内で実施されてきた風評払拭の取り組みを紹介する。



農産物の価格推移

#### 4-1 除染

原子力発電所事故後、住民を放射線から守るため、どのように除染が行われてきたのか、また避難指示解除に向け、現在進められている除染の状況について紹介する。



グラフィックイメージ



防護服とフレキシブルコンテナバッグ (実物資料)

#### 4-5 研修・ワークショップ

防災・減災に関する学習やワークショップ、研修が実施できるスペース。さまざまな資料、機器、装置を活用したデモや検査などの体験を予定。



米の全量全袋検査機模型

#### 4-4 健康に関する取り組み

原子力発電所事故由来の放射線による健康への影響は確認されていないが、県民の健康状態を把握し、健康維持、増進を図るために実施されているさまざまな取り組みについて紹介する。



県民健康調査について

#### 4-3 長期避難への対応

長期避難がもたらす問題は、住居、子育て、コミュニティ形成など複合的で、解決は容易でない。長期避難による諸問題を明らかにするとともに、その解決のため現在進められている取り組みを紹介し、これから何ができるかを考えることにつなげる。



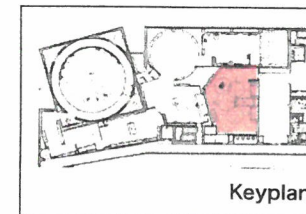
避難者数の推移



## 5.復興への挑戦

逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介する。

廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの取り組み、そして県民が取り組む復興へのチャレンジに関する情報を発信することにより、県内の他施設、地域への回遊を促す。



### ■コーナーの展示概要

#### 5-1 復興のあゆみ

災害の発生からこれまでの復興の歩みと、現在の取り組みについて、最新情報を届ける。

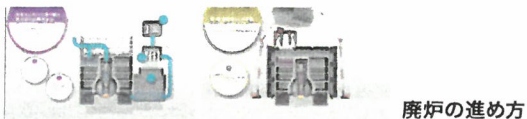
産業の復興、まちづくりの状況など、常に新しい情報を得られる場とする。



#### 5-2 廃炉の今

福島第一原子力発電所における廃炉作業の内容をタッチパネル解説等で分かりやすく伝える。

事故発生から現在までの時系列に沿って、作業経過などの情報発信を行う。



#### 5-3 福島イノベーション・コースト構想

浜通り地域等の産業回復を目指す福島イノベーション・コースト構想と連携し、最新の取り組みを紹介する。また、新産業の現場への回遊やツーリズムを促す。



解説映像

#### 5-4 未来のまち

来館者が「こうなったらいいな」と想い描く未来のまちを一緒に想像してもらい、福島の未来について考えるきっかけとする。

##### ◆タッチパネルコンテンツについて

##### みんなで作る未来のまち

来館者が「こうなったらいいな」と想い描く未来のまちを作り上げていくシミュレーションゲーム。

同時に6人が体験でき、いくつかのアイテムを選択すると、それに応じてまちが作られていく。



#### 5-5 県民によるチャレンジ

原子力災害によって県民が直面した様々な困難。それを乗り越え、地域の再生に向けた取り組みなど、県民によるチャレンジを紹介する。

随時更新しながら、常に新しい取り組みを紹介するとともに、未来への県民の想いを伝える。



